

# 「回天」搭乗員のメッセージ

特攻兵器「回天」の搭乗員（回天に乗りこむ人）に塚本太郎さんという人がいました。塚本さんは大学で勉強をしていましたが、戦争が長引くにつれ、兵隊の数が足りなくなり、戦争へいかなければならなくなったため、海軍へ入隊、回天搭乗員に志願しました。

塚本さんは出撃する前に自分の声を録音し、家族に遺しています。大和ミュージアムの回天前にあるパネルのボタンを押すと、メッセージを聞くことができます。

戦況が苦しくなった終戦間際、このような特攻作戦は、回天以外にも飛行機や舟艇（小型の船）などさまざまな形で行われ、多くの若い隊員が戦死しました。



塚本太郎大尉

## 塚本さんの残した音声（一部）

父よ、母よ、弟よ、妹よ。そして永い間はぐくんでくれた町よ、学校よ、さようなら。本当にありがとう。こんなわがままなものを、よくもまあほんとうにありがとう。僕はもっと、もっと、いつまでもみんなと一緒に楽しく暮らしたいんだ。愉快に勉強し、みんなにうんとご恩返しをしなければならない。春は春風が都の空におどり、みんなと川辺に遊んだっけ。夏は氏神様のお祭りだ。神楽ばやしがあふれている。昔はなつかしいよ。秋になれば、お月見だといってあの崖下に「すすき」を取りにいったね。あそこで、転んだのは誰だったかしら。雪が降り出すとみんな大喜びで外へ出て雪合戦だ。昔はなつかしいなあ。

こうやってみんなと愉快にいつまでも暮らしたい。喧嘩したり争ったりしても心の中ではいつでも手を握り合っ

しかし、僕はこんなにも幸福な家族の一員である前に、日本人であることを忘れてはならないと思うんだ。日本人、日本人、自分の血の中には三千年の間受け継がれてきた先祖の息吹が脈打っているんだ。  
(後略)